

清水建設

湿地グリーンインフラ再興活動

清水建設では、国立環境研究所や地元の市民団体と共に、千葉県富里市の谷津田で湿地グリーンインフラの再生を行っている。

谷津の再興

谷津とは、千葉県北部をはじめ東京都圏の郊外部に広がる、台地が浸食されてできた小さな谷地形である。谷津はかつて人と生き物が共生し、自然の恵みを分け合う場所であったが、大規模営農に不向きなために放棄されたり、都市化によって埋め立てられたりしている。里山という二次的自然の中で作られた人と自然のかかわり方を、グリーンインフラとして再興することは、地域特有のランドスケープを踏まえたネイチャーポジティブ実現に向けて重要と考え、2021年度より本活動を開始した。「ハツ堀のしみず谷津」では、「生命共同体」として人も自然も地域も全てが共存で

きる心地良い関係性を大切にしている。そのうえで、企業活動によるインパクトとして、地域固有の自然の活用を通じた価値の手直しと共有や、連携主体が恩恵を受け合う仕組みや持続可能なビジネスモデルの構築、それらを礎とした文化の創造と継承を目指している。

自然との新たなかかわりを実践

建設業は、ものづくりを通して水や木材に依存しているだけでなく、今後のインフラ管理やまちづくりにおいて、地域に残された自然を活かした社会構築の機会を形にする一翼を担っている。そうした誇りと責任を胸に、湿地という環境を活かし、雨水等の健全な循環の維持や一時貯留による治水、湧水の水質浄化、減少が進む動植物の保全といった知識の蓄積とその共有に取り組んでいる。

再生活動では、竹林伐採や水路整備に加え、伐採した竹をバイオ炭として活用する脱炭素や資源循環にも取り組んでいる。また、家族でつくる秘密基地プロジェクト、生物と文化の多様性を掛け合わせた社員環境教育のほか、地元と大学の連携による谷津ウォーク等、多角的な視点から自然との新たなかかわりを実践している。今後も、従来の社会貢献活動を超えた自然再生活動を地域と共に継続する予定である。



ハツ堀のしみず谷津